

●ZIFERには、大きいほうからマジョリーナ、コロンプス、オーバーキャンブという3つのタイプがあり、それぞれにまた大小の種類がある。今回はボルボ240ワゴンに大きめなマジョリーナを、小型2ボックスのローバー114に小さめなオーバーキャンブを装着してみた。とはいえフィアット・パンダのような小型車に、大きなマジョリーナを装着する例もあるというからスゴい。

Get!
OUTDOOR GEAR
SPECIAL TEST



クルマの屋根からニョッキリとテントが出現!?

カールーフ テント ZIFER 実用度 チェック

★Mark (マーク)

身長185cm。生まれも育ちもニューヨーク。16歳でBMXレースにデビューし10回以上優勝するなど、各種アウトドアスポーツに関し豊富な経験をもつ。1995年来日し、アメリカン・アウトドアライフ・コメンテーターとして活躍中。



★TAMON (タモン)

身長183cm、体重92kg。音楽のプロデューサー、イベントの企画制作、コンピュータのオペレーション、モデル……と、多方面で活躍する謎の男。今回はその巨体を活かし、弟分の「小タモン」とカールーフテントの頑丈さをチェック。



初めてみたら「なんだ、あれ?」と驚くことだろう。クルマの屋根にテントが載っているのだ! 「屋根にそんなの載せて大丈夫?」「人が乗ってもつぶれない?」と、素朴な疑問がわいてくる。アウトドアにうるさいテスターたちがテスト開始だ。

撮影/郡大二郎 コーディネイト/トライフュージョン 協力/ (ZIFERカールーフテント)

最初はおっかなびっくりでもテスト後は納得の3人だった

今回テストするのはイタリア製のカールーフテント「ZIFER」(ジフェール)。初めて目にする方も多いだろうが、実は30年以上の歴史をもつ商品で、ヨーロッパでは相当な数が売れているという。

ZIFERはルーフキャリアの上に装着するテント。だからルーフキャリアが取り付けられるクルマなら、一部の例外を除き装着可能。後付けのオートフリートップ(電動ではない)という感じだが、ZIFERなら不要なときは取りはずしておける。使うときだけ装着し、普段は身軽でいられるわけだ。

だが現物を目にしたテスターたちは、どうも不安を隠せない様子である。

「ルーフキャリアの許容荷重は超えちゃうよね。本当に大丈夫なのか?」(マーク)

「おいおい、こうみえても俺、虚弱体質だからさあ。頼むぜえ!」(タモン)

「なにかあったら、バイオリンのおけいこいけなくなるでちゅ……」(小タモン)

まずは設営に挑戦である。普通のテントと違い、ペグを打ったりロープを張ったりの手間がないのが、カールーフテントのウリ。設営に手間がかかったら意味がない。

さて結果は左ページで紹介しているように、実に簡単だった。特にマジョリーナは、慣れれば3分もかからないはずである。

次は強度や安定度だ。これも結果として、なんら問題なし。広げたテントのなかに人間が乗り込んで、屋根がつぶれるとかルーフキャリアが壊れるとか、そんな事態にはならなかった。床がふたつ折りになるうえ、クルマの屋根から半分はみ出すオーバーキャンブも、乗ってみると不安はない。

1999年6号記事掲載